

せきせいしゅうこ
石西礁湖 自然再生推進計画調査について

1. 概要

石垣島と西表島の間広がる広大なサンゴ礁海域は、石西礁湖と呼ばれ、我が国を代表するサンゴ礁生態系を有している。この海域は、西表国立公園に指定されるとともに、その一部は海中公園地区に指定されている。石西礁湖のサンゴ礁は、我が国最大規模のサンゴ礁であるだけでなく、400種を超える造礁サンゴが分布する種の多様性の高い海域であり、また、沖縄本島等、高緯度域へのサンゴ幼生の供給源としても我が国のサンゴ群集を支える重要な役割を果たしているとも言われている。

また、ダイビング、水中観光船、漁業活動等の多様な利用がなされている海域であり、地域経済に果たしている役割も大きい。

2. 再生の必要性

石西礁湖のサンゴ群集は、1970年代後半から大量発生したオニヒトデの食害によって、1980年代後半にはほぼ全域で壊滅的な被害を受けた。

また、1998年には、夏季の高水温による白化現象により、オニヒトデの被害からの回復途上にあつた多くのサンゴが死滅するなど、サンゴ礁の衰退が深刻な問題となっている。

近年もオニヒトデの確認数が再び増加傾向にあり、大発生が懸念されるとともに、高水温に伴う白化現象も石西礁湖及び周辺の各海域で確認されている。

さらに、降雨に伴い、陸域から大量の表土が海域に流出し、サンゴの生息域に堆積するなど陸域の人間活動に伴うサンゴの生息への影響も深刻化している。

このため、サンゴ礁の適切な保全管理の重要性は以前にも増して高まっており、サンゴ礁の健全性の回復のための積極的、具体的な対策を早急に検討する必要がある。

3. 調査の目的

本調査においては、サンゴ礁及び周辺の生態系の現状調査、攪乱要因・環境負荷の把握、社会経済状況等を把握し、地元関係者等との合意形成を図りつつ、サンゴ礁生態系の保全管理および再生手法等を検討し、「石西礁湖地区自然再生推進計画」を策定するものである。

また、計画の検討に当たっては、石西礁湖における自然再生及び関連する事項について、学識経験者および関係機関からなる「石西礁湖自然再生推進調査専門委員会」を設置し、技術的・学術的見地から指導・助言を受けるものとする。

4. スケジュール

平成14年度	サンゴ群集分布調査、海水流動調査、社会経済状況調査
平成15年度	サンゴ群集分布調査、海水流動調査、社会経済状況調査 専門委員会の設置・開催、オニヒトデモニタリング
平成16年度	「石西礁湖地区自然再生推進計画」の策定